

電波資源拡大のための研究開発・平成25年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
車車間通信技術を活用したネットワーク構築に関する研究開発	H25	<ul style="list-style-type: none"> ・概ね目標を達成しており、セルラネットワークやLANネットワークに車車間通信を通して接続できることなど、車車間通信のための基本的な技術の見通しが得られたと判断される。 ・1年間という短い期間にもかかわらず、知財への取り組みの努力が伺え、評価できる。 ・単年度の研究開発であり、標準化対応は無理であったと思うが、実用化のめどについては、もう少し具体的かつ明確に方針が示されていても良いと考える。 	3.6
79GHz 帯レーダーシステムの高度化に関する研究開発	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・79GHz 帯高分解能レーダーの高視野角化、耐干渉性などの性能を達成しており実用化の目途をつけたと考えられる。 ・高精度分離技術、干渉低減・回避技術、レーダーシステム実用化の各開発項目の当初目標を達成していると判断できる。 ・交差点などでの実際の状況をもう少し考慮するなど実用化をにらんだ検討がさらに必要と考える。 	4.3
電波環境適応レーダーの研究開発	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・NULL ステアリング技術、不等アレイ間隔による低サイドローブ化など干渉抑圧能力に優れた船舶レーダーの新たな可能性を示したことは高く評価できる。 ・干渉抑圧性能を有する電波環境適応レーダーをMIMO レーダーと回転式レーダーで検討しMIMOレーダーの有用性を明らかにしたことは評価できる。 ・特許出願は十分に考慮されているが、開発した技術の有効性を示して個体素子レーダーの普及を促す意味からも、外部発表をもっとアクティブに行うべきであったと考えられる。 	3.9
高速・高品質な無線通信実現のためのIC チップレベルの低ノイズ化技術の研究開発	H22-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・雑音対策は、無線機設計における永遠の課題であり、設計マージンの最適化による周波数利用効率の向上が期待できる面からも本研究開発の有益性は高いと思います。 ・電磁界のプロベイング、IC チップレベルでのノイズ解析、ノイズそのものの低減と、本研究開発はバランスのとれた研究であり、それぞれ成果がでており有益であった。 ・電磁界プローブなどの要素技術に関しては製品化を視野に入れても良いと考える。 	4.0
ホワイトスペースにおける新たなブロードバンドアクセスの実現に向けた周波数高度利用技術の研究開発	H23-H25	<ul style="list-style-type: none"> ・研究目標を十分数値的に達成している。さらに国際標準化活動にも最大限努力し、成果を挙げてきており高く評価できる。今後もこのアクティビティが継続されることが望まれる。 ・リアルタイムセンシング、動的周波数管理、ダイナミックスpekトルアクセスの全ての項目で目標を達成している。また標準化活動に関してもかなりのエフォートが割かれ活発に活動が行われた。 ・論文ならびに標準化活動で、日本のプレゼンスを示せた。今後の課題は産業化の視点である。 	4.4